



ことばのかべをこえよう！ こうかのWA ～国フェス2023 in KOKA～

甲賀市最大規模の国際交流イベント『国フェス2023』が、まちづくり活動センターまる一むで10月1日に開催されました。

当日は、国際色豊かな飲食ブースや展示、ステージではダンスなど盛りだくさんの内容でした。

飲食ブースでは、各国ならではの軽食が用意され、来場された方は新しい味に挑戦されていました。

『ことばのかべをこえよう！こうかのWA』というテーマ通り、カメラを向けると笑顔でポーズを取ってくれる来場者が印象的でした。

笑顔でポーズをとる来場者の方



各国の国旗があげられた会場の様子



自分との戦いに打ち勝て 10耐マラソン

- 10時間（5時間）耐久リレーマラソンが10月8日に、甲賀中学校グラウンドと周回コースで行われました。
- 今年も5時間の部のみが開催され、93チームが参加し、同じ部活や職場のチームなど、さまざまな参加者で盛り上がりました。
- 仲間で協力して記録更新をめざすチームや一人で5時間走り続ける人など、それぞれ楽しんで参加されていました。

市長の合図で一気にスタートする参加者



若い力が甲賀の未来を創る！ 若者政策アイデアコンテスト

未来甲賀市2023若者政策アイデアコンテストが10月14日に忍の里プラザで開催されました。

大学生を中心に5チームが参加し、若者ならではの視点で考えられた政策が発表されました。

参加者には、甲賀市出身者だけでなく、このコンテストで初めて甲賀市を訪れた方もおられ、「甲賀市について調べていくうちにもっとこの街が好きになった」、「政策を一から考える良い機会になった」など話されていました。

みなさんからご提案いただいた政策アイデアは、今後実現化に向けて検討していきます。

政策をプレゼンする参加者



市長賞を受賞したチーム「わかば」の皆さん



元気な まちがど

知っとうか！ 公立甲賀病院

第20回

パーキンソン病の 運動障害について 知っとうか

リハビリテーション科 部長 藤田美奈子



パーキンソン病は、脳の異常のために、体の動きに障害があらわれる病気です。

現在、日本には約20万人の患者がいるといわれています。高齢者に多くみられる病気ですが、若い人でも発症することがあります。代表的な症状として動作が遅く、少なく・小さくなる、安静にしていない時に手や足に細かな震え（安静時振戦）がでる、バランスが取れなく（姿勢反射障害）なるといったものが挙げられます。また、腕や足をうごかさずとすると関節がカクカクするような抵抗（筋固縮）が感じられる事や便秘、起き上がったときにふらつく（起立性低血圧・自律神経失調）といった非運動症状も出ます。

同時に注目されているのが運動療法です。身体機能や健康関連のQOL・筋力・バランス・歩行速度の改善に有効であることがガイドラインにも示されており、早期から進行期までのどのステージにおいても有効性が高いとされています。太極拳や音楽療法・ダンスやビデオゲームなど多様な方法があります。当院ではアメリカで考案されたLSVT BIGという運動療法を行っています。

所定の試験に合格した療法士しか行うことが出来ない療法で、滋賀県では当院が最も早く取り入れて、外来やリハビリ入院を行っていると思います。ご興味がありましたら、詳細は当院窓口にてお尋ねください。



問合せ 公立甲賀病院 総務企画課 TEL 62-0234 FAX 63-0588

未来につながる

エコっとうか

コウカEXPO2023を カーボン・オフセット開催しました

10月15日（日）、2025年大阪・関西万博に向け、5つのイベントからなる「コウカEXPO2023」を「SDGsの目標達成」等を共通のテーマとして開催しました。

本イベントは、容器包装やフードロスの削減、公共交通機関の利用促進など環境に配慮して開催しましたが、会場で使用する電気や資材の運搬などにより排出してしまうCO₂については、適正な森林管理などで生み出されるCO₂吸収量（クレジット）で埋め合わせるカーボン・オフセットを行いました。

この取り組みは、持続可能な地域社会の実現に向けて、地域の脱炭素化に積極的に取り組む株式会社滋賀銀行様にご賛同いただき、ご寄附いただいた「びわ湖カーボンクレジット」により実現しました。

問合せ 環境未来都市推進室
TEL 69-2156 FAX 63-4554

エコっとう知識 「びわ湖カーボンクレジットとは」？

滋賀県は、国の認証制度である「J-クレジット」に認証されたものの中で、県内で生み出されたクレジットのことを「びわ湖カーボンクレジット」と呼び普及促進に取り組んでいます。



▲「びわ湖カーボンクレジット」贈呈式



甲賀市環境
未来都市宣言

甲賀市は2050年
カーボンニュートラル
をめざしています。